

令和7年度 第1回アカデミー講座 未来の奥入瀬、はじめよう ～奥入瀬ビジョンを実現性あるカタチに～

主催者挨拶:宮下 宗一郎 氏
青森県知事 / 奥入瀬十和田利活用協議会 会長

講師:石田 東生(いしだ はるお)氏
筑波大学名誉教授・学長特別補佐
奥入瀬溪流利活用検討委員会 委員長



本講演では、奥入瀬が抱える交通集中による渋滞や交通騒音、通過型観光といった課題を踏まえ、青楓山バイパスの開通後を見据えた多様な取り組みが紹介されました。「まるごと自然博物館」実現に向けた『奥入瀬ビジョン』の提言をはじめ、官民連携による奥入瀬十和田利活用協議会の発足とその強化、「せせらぎ体感プロジェクト」の実施や「エコロードフェスタ」の拡充、新たなモビリティサービスの導入実験など、地域全体で段階的に施策が進められています。さらに、全国各地の先行事例を参考に、滞在型観光の推進、周辺地域との広域連携の強化、リピーター獲得の仕組みづくりの必要性など、具体的な視点から解説がなされました。



世界一の自然博物館であり続けるためには？今後も幅広い議論を…

- ✓ モビリティサービスの充実
 - アクセスは大量輸送・スピーディー・快適に
 - 溪流内は道路敷を最大限活用(歩く+乗る)
- ✓ インフラの整備(ソフト&ハード)
 - ガイド、情報提供、電力、通信、道案内、休憩環境など
- ✓ 周辺地域との広域連携による魅力発信
 - 八甲田・白神・八幡平などと一体的にPR
- ✓ 地域に“貢献したくなる”仕組みづくり
 - 長期滞在、体験の発信、支援参加の機会創出
- ✓ 持続と進化を支える担い手・仲間づくり
 - 教育・研修制度の整備、調査・研究の継続
- ✓ 奥入瀬の価値とサービスに見合った入館料(入域料)の導入
 - 適正な対価と世論形成がカギ
- ✓ 着眼大局、着手小局
 - 大きく見て、頭をしっかりと使い、実例を発掘し実践する

